

科 目 名	自然の科学Ⅱ	科目・分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Natural ScienceⅡ	1	後期	2
担当者名	わたなべ いさむ 渡 部 勇	テ ー マ	「科学的議論の仕組み」と「宇宙の仕組み」	

授業概要

人類がこれまで明らかにしてきた自然界の真の姿は、実は我々が日常生活を通して自然に身に付けて来た常識とは相反する事も多いが、その自然界の真の姿の不思議さに感動し、また「常識の壁」を論理と実験観察によって打ち破ってきた我々人類の知的成果を知ってもらおう。この授業では、「科学する」とはどう言う事なのかについて、主に天文学の幾つかの歴史上の、或いは現代の最先端の具体例に触れながら、時には少々数式をも用いて、「科学的議論」の方法論を理解してもらおう。

		授業計画	後 期
		第1回	授業運営方針の説明
		第2回	前期試験解説
		第3回	天文学のめばえ1 太古の宇宙観
		第4回	天文学のめばえ2 天動説の発展
		第5回	天文学のめばえ3 コペルニクス、プラーエ、ケプラー
		第6回	天文学のめばえ4 ガリレイ、ニュートン
		第7回	天文学のめばえ5 海王星発見
		第8回	天文学のめばえ6 宇宙空間の航行法
		第9回	宇宙の姿1 宇宙の大きさ
		第10回	宇宙の姿2 一般相対性理論
		第11回	宇宙の姿3 ブラックホール
		第12回	宇宙の姿4 ビッグバン宇宙論
		第13回	宇宙の姿5 現代宇宙論
		第14回	宇宙の姿6 宇宙論と素粒子論の接点
		第15回	試験
テキスト	プリントを配布する		
参考文献	授業中に紹介する		
単位認定の方法	試験とレポートによる		
内容的に関連する科目	自然の科学Ⅰ		

科目名	商品と流通	科目・分類	専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Merchandising	1	後期	2
ふりがな 担当者名	ひろ せ たい ゆう 広瀬 大有	テ ー マ	3級販売士資格取得	
授業概要 <ol style="list-style-type: none"> 1. 商業（卸売・小売業）・製造業・サービス業などの業種・業態を問わず注目を浴びているのが、販売士資格。 2. 流通業では、唯一の公的資格。 3. これは、販売士検定試験（1級～3級）合格者に与えられる。 4. 3級販売士試験は年2回（7月、2月）実施され、「小売業の類型」、「マーチャダイジング」、「ストアオペレーション」、「マーケティング」、「販売・経営管理」の5科目構成に改訂された。 5. この試験に合格するためには『販売士検定試験3級ハンドブック』（5冊セット特価7,000円）の購入が不可欠。なぜなら、この書中からの出題が90%を占めるから。 6. このテキストに基づき、「商品学」の講義を進める。 				
		授業計画	後 期	
		第1回	商品とは何か	
		第2回	商品の評価	
		第3回	商品の構成要素	
		第4回	サービス商品の登場とその特徴	
		第5回	商品のブランド	
		第6回	販売者に必要な情報	
		第7回	消費生活の変化を支える法制度と商品	
		第8回	国際化の進展と商品	
		第9回	市場の変化と販売の多様性	
		第10回	生活目的の広がりや販売機能の強化	
		第11回	演習問題	
		第12回	"	
		第13回	"	
		第14回	"	
		第15回	"	
テキスト	『販売士検定試験3級ハンドブック』（新版）			
参考文献	不要			
単位認定の方法	合格が条件（原則）である。			
内容的に関連する科目	流通システム論・マーケティング論			

科目名	欧米の産業と交易の歴史 II	科目・分類	専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	European and American Economic History II	2	後期	2
担当者的名	白川 欽哉	テーマ	20世紀の欧米経済	
授業概要				
<p>本講義では、20世紀の欧米経済のダイナミックな変化の原因とその影響を分析・検証していきます。20世紀は、大きく分けると巨大企業の誕生、二つの世界大戦、帝国主義と反帝国主義運動、福祉国家の進展、社会主義の盛衰といった特徴を有しているといえるでしょう。それらを念頭に、講義は構成されています。講義中に聞き逃した点、理解しづらい点があった場合には申し出てください。</p> <p>* 入学年度が平成17年度以前（990xxx～050xxx）の学生で、昨年度までに「西洋経済史II」の単位を取得していない学生は、今年度はこの科目を履修することができます。</p>				
		授業計画	後 期	
		第1回	20世紀の世界経済（概観）	
		第2回	アメリカ合衆国の成立と農工間分業	
		第3回	19世紀末大不況とヨーロッパ経済	
		第4回	第二次産業革命とヨーロッパ	
		第5回	第二次産業革命とアメリカ合衆国	
		第6回	巨大企業の時代	
		第7回	イギリスの地位低下とその背景	
		第8回	植民地獲得をめぐる競争	
		第9回	第一次世界大戦とロシア革命	
		第10回	大戦間期の世界経済	
		第11回	世界大恐慌と世界経済	
		第12回	ナチスとニューディール(1)	
		第13回	ナチスとニューディール(2)	
		第14回	第二次世界大戦後の世界経済	
		第15回	総まとめ	
テキスト	石坂昭雄・舟山榮一・宮野啓二・諸田實編著『西洋経済史』（有斐閣）			
参考文献	石坂昭雄・壽永欣三郎・山下幸夫・諸田實編著『商業史』（有斐閣）			
単位認定の方法	定期試験の点数と出席率の総合評価（出席率60%未満の学生は不可とします）			
内容的に関連する科目	欧米の産業と交易の歴史II、一般経済史、日本経済の歩みI & II			

科目名	生産管理Ⅱ	科目・分類	専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Production ManagementⅡ	3・4	後期	2
担当者名	阿部 時 男	テーマ	現代の生産管理、トヨタ方式、ERP、SCM	

授業概要

生産管理を広義に定義するならば、“財貨の生産に関与する諸種の生産力の総合的調整によって企業全体としての生産力を最高度に発揮せしめる”(生産管理便覧、丸善)である。すなわち、物的ならびに人的生産力を合理的に組み合わせることによって経営目的達成のために諸活動を組織的・科学的に機能させ、高い生産能率をあげることである。そのためには、まず、設備・工具・動力の機械化そして管理面の情報化と人間工学的な合理化を図り、また、一方で労働力の能率的利用のための技能の養成と能力の開発を促進することである。

現代の生産管理は、もの作りを側面から支援する役割から部材の調達から、生産、そして、流通にいたる一連の流れの中で機能することが求められている。すなわち、生産の管理から広く製造企業の管理の観点に生産を見つめて行かなければならない。その意味で、インタストリアル・エンジニアの知識が不可欠である。本講義では生産管理をI E (インタストリアル・エンジニア)の観点に重点を置き学習する。そこで取り扱う内容は出来るだけ現代の製造企業の管理に欠かすことの出来ない実践的知識についてビデオ教材を用いて出来るだけやさしく解説する。

授業計画		後 期
	第1回	生産管理の目的
	第2回	生産管理の仕組み
	第3回	生産計画ともの作り1
	第4回	生産計画ともの作り2
	第5回	生産手配と日程計画
	第6回	在庫管理1 (基礎理論)
	第7回	在庫管理2 (システム化)
	第8回	在庫管理3 (安全在庫、トータル在庫)
	第9回	トヨタ方式 (かんばん、自動化、段取り替えなど)
	第10回	MRPとトヨタ方式
	第11回	ISO9000フレキシブル総合生産システム1
	第12回	ERPと生産管理
	第13回	TQCからTQM
	第14回	ECR・QRと情報システム
	第15回	SCMと情報システム
テキスト	田中一成著「図解生産管理 基本の基本からSCM, ERPまで」日本実業出版社	
参考文献	『生産管理の基礎テキスト』、日本能率協会マネジメントセンター 桑田秀夫著『生産管理概論』日刊工業新聞社	
単位認定の方法	出席、中間・期末試験、宿題、各25%、出席率60%以下は認定対象外	
内容的に関連する科目	経営管理、経営学、ビデオ教材の利用、工場見学の奨め	

平成19年度 シラバス原稿用紙

科目名	地方財政Ⅱ	科目・分類	専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Local Public FinanceⅡ	3年次	後期	2単位
ふりがな 担当者名	つかたに ふみたけ 塚 谷 文 武	テーマ	地方財政	
【授業概要】				
<p>本講義では、地方分権改革が地方財政に与える影響を多角的な視点から考える。地方財政の歴史的変遷過程や、国際比較を通じてわが国の地方財政のあるべき姿を明らかにしたい。</p>				
授業計画 前期		後期		
		第1回 地方独自課税(1) 内容：独自課税の歴史		
		第2回 地方独自課税(2) 内容：独自課税の現状と動向		
		第3回 福祉と地方財政(1) 内容：公的介護保険と市町村財政		
		第4回 福祉と地方財政(2) 内容：公的介護保険と市町村財政		
		第5回 公共事業と地方財政(1) 内容：公共投資と社会資本、仕組みと概況		
		第6回 公共事業と地方財政(2) 内容：公共投資と社会資本、仕組みと概況		
		第7回 地方財政の歴史的展開(1) 内容：第2次大戦前の地方財政		
		第8回 地方財政の歴史的展開(2) 内容：第2次大戦後の地方財政		
		第9回 地方財政の歴史的展開(3) 内容：高度成長期以降の地方財政		
		第10回 地方財政の国際比較 内容：州・地方税財政の規模、経費、収入		
		第11回 グローバル化の地方財政(1) 内容：アメリカ		
		第12回 グローバル化の地方財政(2) 内容：イギリス		
		第13回 グローバル化の地方財政(3) 内容：フランス		
		第14回 グローバル化の地方財政(4) 内容：ドイツ		
		第15回 総括と展望		
テキスト	和田八束・星野泉・青木宗明編『現代の地方財政(第3版)』有斐閣、2004年。			
参考文献				
単位認定の方法	期末試験(70%)、出席点(30%)を含めて成績評価を行う。			
内容的に関連する科目	財政と国民生活、財政のしくみ、地方財政Ⅰ			

科目名	国際金融論Ⅱ	科目・分類		専門科目・選択
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	International Finance Ⅱ	3	後期	2
担当 者名	にし 西 尾 圭一郎	テ	マ	グローバリゼーションと国際金融市場
授業概要 近年の金融のグローバル化は、一方では金融技術や金融商品の発展をもたらし、我々に効率的な資金の利用を可能にするけれども、その一方でアジア通貨危機のように、莫大な損失をもたらすようになりました。そして、経済に影響を与えるさまざまな国際金融取引は、国際金融市場で行われています。本講義は国際金融市場とそこでのプレイヤーの動きを中心に、現在の国際金融について理解することが目的です。特に日本にとって、現在の国際金融かどのような影響をもたらすのか、といった点に焦点を絞って講義していきます。				
		授業計画		
		後 期		
		第1回 インタロククション		
		第2回 経済のグローバル化と金融のグローバル化		
		第3回 金融機関の国際展開		
		第4回 多国籍銀行の理論		
		第5回 国際金融市場		
		第6回 国際金融市場と国際決済		
		第7回 国際金融市場と国内金融市場		
		第8回 戦後の日本の国際金融		
		第9回 円の国際化について		
		第10回 日本の銀行の世界展開		
		第11回 アジアの経済成長とドルシステム		
		第12回 アジア通貨危機		
		第13回 アジアの域内金融協力		
		第14回 アジアの中の日本と国際金融		
		第15回 まとめ		
テ キ ス ト				
参 考 文 献				
単 位 認 定 の 方 法	試験を中心に、出席等を考慮して成績をつけます。			
内 容 的 に 関 連 す る 科 目	現代ファイナンス論			

科 目 名	社会人類学	科目分類	教育科目・選択
英文表記	Social Anthropology	開講年次	1
		開講期間	後期
氏 名	鎌田 幸男	単 位 数	2
		テ ー マ	ふたつの「みまごく」学
授業概要 <p>人類学は、人間つまり人類の研究ということで「全体論的」な科学と称されているが、社会人類学は社会構造の問題に焦点を当てているところに特徴がある。そしてすべての人類文化と社会を題材とした社会的行動、例えば家族制度、親戚の組織、政治組織、法的組織、宗教的儀礼など一般に制度化された形態における関係を主な研究領域としている。本講義では、異なった社会でのそれぞれの歴史的・社会的条件を考えながら人々の生活様式としての文化、社会組織とその中における人間、人間関係をとり上げる。</p>			
授業計画		後 期	
		第16回 環境と人間	
		第17回 1 生産活動の諸形態	
		第18回 2 技術革新による影響	
		第19回 親族のこと	
		第20回 1 日本人にとっての親族	
		第21回 2 家族の形態	
		第22回 3 婚姻に関すること	
		第23回 宗教観	
		第24回 1 アニミズムとシャーマニズム	
		第25回 2 宗教と呪術	
		第26回 3 年中行事	
		第27回 人と文化を考える	
		第28回 1 言語をもつということ	
		第29回 2 社会集団の形成	
		第30回 社会人類学の課題・まとめ	
テ キ ス ト	必要に応じてプリント配布をする。		
参 考 文 献	文化人類学入門（中公新書）、文化人類学読本（東洋経済新報社）、文化人類学（I・II）（古今書院）		
単位認定の方法	定期試験、出席状況、受講態度等総合的に評価する。		
内容的に関連する科目	文化人類学、社会学、地理学など		

科目名	経営法学(ビジネス実務法務検定試験講座)	科目分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Management Law	2	後期	4
氏名	道端 忠孝・木村 澄・徐 進 黒澤 英明・齋田 統	テーマ	ビジネス実務法務検定試験の受験講座	
授業概要 <p>経営法学とは、企業経営に必要なし有用な法律に関する学問である。企業経営上の紛争を迅速かつ適正に解決し、企業経営上の危険を未然に防止し、企業経営上の戦略を展開して、いかに合理的な企業経営を図るかということが、この経営法学の理念であるといえよう。</p> <p>本講では、経営者としてあるいは会社の管理職・幹部職員として必要なビジネス法務の基本を講義し、ビジネス実務法務検定試験にも対応しうるようにする。</p>				
授業計画 後期①		後期②		
第1回	ビジネス実務法務とはなにか	第16回	契約とは、売買契約	
第2回	法律を学ぶ方法あれこれ	第17回	売買契約以外の契約・不法行為	
第3回	民法の基本原則と適用範囲	第18回	契約書・関連文書	
第4回	財産権の多様化	第19回	財産の取得と対抗要件	
第5回	法律の基礎知識	第20回	債権の管理	
第6回	権利・義務の主体	第21回	債権の担保①	
第7回	企業の種類と取引の特色	第22回	債権の担保②	
第8回	商業登記・商号・代理	第23回	債権の回収	
第9回	会社の種類	第24回	企業取引と消費者保護等	
第10回	株式会社の概要①	第25回	ビジネスと犯罪	
第11回	株式会社の概要②	第26回	労働関係法①	
第12回	手形、小切手①	第27回	労働関係法②	
第13回	手形、小切手②	第28回	ビジネスと家族法①	
第14回	手形、小切手③	第29回	ビジネスと家族法②	
第15回	後期試験	第30回	後期試験	
テキスト	東京商工会議所編 『ビジネス実務法務検定試験3級テキスト』(中央経済社) 東京商工会議所編 『ビジネス実務法務検定試験3級問題集』(中央経済社)			
参考文献				
単位認定の方法	試験と出席状況等で評価			
内容的に関連する科目				

科目名	経営心理学	科目分類	専門・選択	
英文表記	Management Psychology	開講年次	後期	単位数
氏名	伊藤 護 朗	テーマ	組織における人間関係を考える	
授業概要 経営心理学は、経営体という組織活動を担っていくものとしての人間の行動や心理を探求するものである 本講では、職場のモラルやリーダーシップなど、組織運営における「人間関係の心理」を中心に講述する				
		授業計画 後 期		
		第1回 経営心理学とは		
		第2回 経営心理学の領域Ⅰ・人事心理分野		
		第3回 経営心理学の領域Ⅱ・作業心理分野		
		第4回 経営心理学の領域Ⅲ・組織心理分野		
		第5回 経営心理学の領域Ⅳ・市場心理分野		
		第6回 人間関係管理論Ⅰ		
		第7回 人間関係管理論Ⅱ		
		第8回 信頼関係（思いやりで部下を動かすⅠ）		
		第9回 信頼関係（思いやりで部下を動かすⅡ）		
		第10回 職場におけるリーダーシップ		
		第11回 人心掌握のベース作り		
		第12回 リーダーシップの科学		
		第13回 組織集団の状況とリーダーシップ		
		第14回 リーダーになるための条件		
		第15回 試験		
テキスト	開講時に提示する。			
参考文献	公浦健児編「経営組織心理学」（朝倉書店） 岡村一成編「経営の科学」（福村出版）			
単位認定の方法	出席状況・テスト			
内容的に関連する科目	「経営学」「心理学」			

科 目 名	ホテルの法律	科目分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記		3	後期	4
氏 名	道 端 忠 孝	テ ー マ	宿泊業の規制と取引などの法律関係	
授業概要 <p>ホテルの法律とあるが、ここではホテルのほか、旅館やその他の宿泊施設に関する法律問題をとりあげる。ホテル・旅館の規制と、ホテル・旅館営業における取引関係および不法行為事件などにふれる。</p> <p>1回程度、レポートの提出を求める。また、プリントを配布するので整理しておくこと。</p>				
		授 業 計 画 後 期		
		第1回 宿泊業と法律の概要		
		第2回 旅館業法と目的・概要		
		第3回 国際観光ホテル整備法の目的・概要		
		第4回 宿泊契約と宿泊約款		
		第5回 宿泊契約の意義・内容		
		第6回 宿泊クーポン・サービス料		
		第7回 客の携帯品についての責任		
		第8回 貴重品についての責任		
		第9回 宿泊約款上の責任		
		第10回 客の車両についての責任		
		第11回 宿泊約款上の車両に対する責任		
		第12回 宿泊業における不法行為		
		第13回 ふく中毒死事件		
		第14回 ホテル火災とその責任		
		第15回 試験		
テ キ ス ト	講義時に指示する。			
参 考 文 献	講義時に指示する。			
単 位 認 定 の 方 法	試験 (60%)、レポート (20%)、出席率・授業態度等 (20%)			
内 容 的 に 関 連 する 科 目	観光関係法、やさしい旅行業管理者の受験入門			

科目名	景観行政と法	科目分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記		3	後期	2
氏名	渡部 毅	テーマ	地域の景観を守るための法制度や行政手法について学ぶ	
授業概要 景観の維持・向上に向けた試みが各地で進められています。行政や地域住民が地域の共有財産である景観保全に取り組むことは、魅力的なまちづくりにもつながることといえます。この講義では、行政や市民が景観の維持・形成を図っていく際に、どのような法的手法・しくみに基づいて行っていくのかを学ぶとともに、景観をまちづくりに生かしていくための具体的な手法について、先行事例を検討しながら学習していきます。				
		授業計画 後期		
		第16回 ガイダンス 景観行政とは		
		第17回 景観とまちの魅力		
		第18回 景観法の概要		
		第19回 景観条例		
		第20回 景観行政における自治体の役割		
		第21回 景観によるまちづくり		
		第22回 景観誘導の手法		
		第23回 景観形成の手法		
		第24回 景観再生の手法		
		第25回 眺望や背景作りの手法		
		第26回 都市景観を生かしたまちづくり		
		第27回 自然・農村景観を生かしたまちづくり		
		第28回 歴史的景観を生かしたまちづくり		
		第29回 景観を生かしたまちづくりと市民参加		
		第30回 期末試験		
テキスト	開講時に指示する			
参考文献	開講時に指示する			
単位認定の方法	期末試験・レポート・出席率			
内容的に関連する科目	観光関連の諸科目			

科 目 名	過去から学ぶ政治の知恵Ⅱ	科目分類	教養科目・選択
英文表記	Political History Ⅱ	開講年次	1
		開講期間	後期
		単 位	2
氏 名	吉 野 篤	テ ー マ	過去と現在の対話
授 業 概 要 Ⅱでは主に市民革命の政治過程、具体的にはイギリス革命・アメリカ独立革命・フランス革命を取り上げた後、その後のウィーン体制の展開などについて論じる。思想史的要素として革命へと反応としての保守主義などを取り上げて、立体的な構成を心がけたいと考えている。			
授 業 計 画	後 期		
	第16回 市民革命の歴史的位置付け		
	第17回 ビューリタン革命の政治過程①		
	第18回 ビューリタン革命の政治過程②		
	第19回 名誉革命の政治過程と意義		
	第20回 アメリカ独立革命の政治過程①		
	第21回 アメリカ独立革命の政治過程②		
	第22回 フランス革命の政治過程①		
	第23回 フランス革命の政治過程②		
	第24回 ウィーン体制の形成と展開①		
	第25回 ウィーン体制の形成と展開②		
	第26回 反革命の政治的反応（保守主義）		
	第27回 現代史の理解の仕方①		
	第28回 現代史の理解の仕方②		
	第29回 政治史学の現在		
	第30回 後期試験		
テ キ ス ト	使用しない		
参 考 文 献	授業の中でその都度示す		
単 位 認 定 の 方 法	出席・試験		
内 容 的 に 関 連 する 科 目	生活と政治Ⅰ		

科目名	日本の歴史Ⅱ	科目分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記		1	後期	2
氏名	佐々木 久吾	テーマ		
授業概要 さまざまな視点から我が国の歴史の展開を考察し、日本の文化や伝統について理解を深めるとともに、歴史の見方・考え方などを学ぶ。 1) 各回のテーマにそった主題を設定し、その主題を核に授業を進める。 2) 東アジア史及び世界史との関連や比較史的視点から日本史を考える。				
授業計画		後期		
		第16回	織豊政権と桃山文化 ・天下布武 検地と刀狩 洛中洛外図	
		第17回	江戸幕府の成立と幕藩体制 ・大名徳川氏 武家諸法度 藩の成立	
		第18回	経済の発達 ・新田開発 城下町 三貨と国内市場	
		第19回	幕府政治の推移 ・徳川綱吉 享保の改革 田沼意次	
		第20回	近代的意識の萌芽 ・石田梅岩 安藤昌益 佐藤信淵	
		第21回	幕末政局の展開 ・尊王攘夷 公武合体 薩長同盟	
		第22回	明治政府の成立 ・戊辰戦争 廃藩置県 地租改正	
		第23回	自由民権運動と帝国憲法の制定 ・国会期成同盟 明治14年の政変 欽定憲法	
		第24回	条約改正と日清・日露戦争 ・鹿鳴館時代 下関条約 ポーツマス条約	
		第25回	資本主義の成立と発展 ・大阪紡績会社 八幡製鉄所 財閥の形成	
		第26回	第一次世界大戦と大正デモクラシー ・ベルサイユ体制 民本主義 憲政の常道	
		第27回	独占資本主義と社会問題 ・昭和恐慌 満州事変 国家革新運動	
		第28回	日中戦争と太平洋戦争 ・国家総動員法 三国同盟 大東亜共栄圏	
		第29回	現代の日本 (1) ・ポツダム宣言 GHQ 日本国憲法	
		第30回	現代の日本 (2) ・朝鮮戦争 講和条約 日米安保条約改訂	
テキスト	寶月圭吾・児玉幸多編「新稿日本史概論」吉川弘文館			
参考文献	日本史教育研究会編「Story 日本の歴史 下」山川出版社 竹内誠・他編「教養の日本史」東京大学出版会。授業のなかでも紹介していく。			
単位認定の方法	レポートや出席状況等を勘案し総合的に評価する			
内容的に関連する科目				

科目名	哲学のあしあと	科目分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記		1	後期	2
氏名	和田寛伸	テーマ		
授業概要 単位修得方法の関係上、前期の哲学Ⅰ（2単位）と後期の哲学Ⅱ（2単位）に分割した講義を行うが、内容的には一貫性が企図されており、授業概要は前期の哲学Ⅰに準じる。				
授業計画		後期		
		第16回	ソクラテスの哲学	
		第17回	ソフィストの哲学	
		第18回	ソクラテスの登場	
		第19回	ソクラテスの問答法	
		第20回	ソクラテスの死	
		第21回	プラトンの哲学Ⅰ	
		第22回	プラトンの哲学Ⅱ	
		第23回	プラトンの政治哲学	
		第24回	アリストテレスの哲学Ⅰ	
		第25回	アリストテレスの哲学Ⅱ	
		第26回	アリストテレスの法哲学と政治哲学	
		第27回	ホリスの哲学からコスモポリスの哲学へ	
		第28回	キリスト教の哲学	
		第29回	補足	
		第30回	試験	
テキスト	哲学Ⅰと同「新哲学年表」			
参考文献	講義の場で指示			
単位認定の方法	出席・試験			
内容的に関連する科目				

科 目 名	小論文の書き方	科目分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Critical Thinking and Writing	1	後期	2
氏 名	橋 元 志 保	テ ー マ	論理的文章の書き方の基本を身につける	
授業概要 <p>本講義では、小論文やレポートの基本的な書き方を学びます。大学生活において、論理的な文章を「書く」という行為は欠かせないものです。定期試験における文章問題やレポート、そして卒業論文など、「テーマを設定し、それに基づいて調査し、考え、まとめる」という作業が非常に多いのです。</p> <p>まずはじめに論の構成やテーマの設定の仕方について学び、続いて資料の探し方、引用の方法などを学んでいきます。また自分が書いた文章を、表記や文体、構成等の観点から、より良い文章に推敲していくスキルも身につけましょう。</p>				
授業計画		後 期		
		第16回 論説文とは①		
		第17回 論説文とは②		
		第18回 構成とテーマの設定①		
		第19回 構成とテーマの設定②		
		第20回 資料の探し方①		
		第21回 資料の探し方②		
		第22回 小論文を書いてみよう①		
		第23回 小論文を書いてみよう②		
		第24回 小論文を書いてみよう③		
		第25回 推敲の方法		
		第26回 表記・段落・文体について		
		第27回 引用と要約①		
		第28回 引用と要約②		
		第29回 文章の構造		
		第30回 総括		
テ キ ス ト	特に指定しない。また授業時に適宜資料を配布する。			
参 考 文 献	授業時に紹介する。			
単位認定の方法	出席や授業態度、課題、試験の総合評価とする。			
内容的に関連する科目	文章の表現Ⅰ・文章の読み方・小論文の書き方			

科 目 名	生活と政治Ⅱ	科目分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Life and politics Ⅱ	1	後期	2
氏 名	吉 野 篤	テ ー マ	現代政治の流れをつかむ	
授業概要				
現代政治過程のアクター（行為主体）を個別具体的に分析する。				
授業計画		後 期		
		第16回 政治過程論		
		第17回 大衆社会論		
		第18回 国家観の変容		
		第19回 大衆社会の政治		
		第20回 政党論		
		第21回 政党制論		
		第22回 連立政権論		
		第23回 選挙と選挙制度		
		第24回 圧力団体論		
		第25回 イギリス政治史論		
		第26回 ヨーロッパ政党論		
		第27回 アメリカ政治学の展開1		
		第28回 アメリカ政治学の展開2		
		第29回 政治学の新動向		
		第30回 後期試験		
テ キ ス ト	杉本修編「政治の世界」北樹出版			
参 考 文 献	授業中に指示する。			
単位認定の方法	出席・試験を総合して評価する			
内容的に関連する科目				

科 目 名	倫 理 学 Ⅱ	科目分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Ethical study Ⅱ	2	後期	2
氏 名	土 肥 貞 之	テ ー マ		
授業概要 <p>倫理とは、もし結論的に言うことが許されるならば、勧善懲悪の道理に始まり、勧善懲悪の実践に尽きるしかないものである。がしかし、情愛と英智を欠いた粗悪なる形式論理を伝家の宝刀の如く振りまわすことも人の世の眞実を過つことになるだろう。やはり一度、実存的苦悩と人間的自覚をくぐって来た上で、倫理というものに還って来なければならぬのではないかと考えるのである。</p>				
授業計画		後 期		
		第16回	カイダンス	
		第17回	環境保全と人間	
		第18回	21世紀が直面する危機	
		第19回	宇宙の歴史から見た人間	
		第20回	類人猿行動学より見た人間	
		第21回	書き取り考査	
		第22回	カントの平和論をめぐって1	
		第23回	カントの平和論をめぐって2	
		第24回	戦争と平和1	
		第25回	戦争と平和2	
		第26回	戦争と暴力	
		第27回	権力と暴力	
		第28回	善と悪の思想史1	
		第29回	善と悪の思想史2	
		第30回	後期試験	
テ キ ス ト				
参 考 文 献		講義の際指示する		
単位認定の方法				
内容的に関連する科目				

科 目 名	文章の表現Ⅱ	科目分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	CompositionⅡ	1	後期	2
氏 名	橋 元 志 保	テ ー マ	論理的な思考力、表現力を身につける	
授業概要 <p>良い文章とは、どのような文章なのでしょう。それは、主題や文章力、構成に優れているだけでなく、自分自身の価値観、心のありようが表れている文章だと思います。「文は人なり」という有名な言葉がありますが、文章を書くことは、自分自身をみつめ直すことに繋がるのです。</p> <p>本講義では、自分自身の考えを明確に伝え、また論理的構造を持った文章が書けるようになるために、様々なことを学んでいきます。具体的には、レポートや論文作成のために必要な、論説文の書き方を身につけていきます</p>				
授業計画		後 期		
		第16回 読むことと書くこと①		
		第17回 読むことと書くこと②		
		第18回 構成とテーマの設定①		
		第19回 構成とテーマの設定②		
		第20回 資料の探し方		
		第21回 要約と引用①		
		第22回 要約と引用②		
		第23回 論説文を書いてみよう①		
		第24回 論説文を書いてみよう②		
		第25回 論説文を書いてみよう③		
		第26回 推敲と批評①		
		第27回 推敲と批評②		
		第28回 言葉と文章①		
		第29回 言葉と文章②		
		第30回 総括		
テ キ ス ト	辰濃和男「文章の書き方」・岩波新書 1994年 他、適宜プリントを配布する			
参 考 文 献	千葉恭浩・本多隼男他「文章表現と会話」 双文社出版 1983年 尾川正二「文章のからだるところ」 ちくま学芸文庫 1995年 他			
単位認定の方法	出席や授業態度、課題、試験の総合評価とする			
内容的に関連する科目	文章の表現Ⅰ・文章の読み方・小論文の書き方			

科 目 名	日本の観光地理	科目分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英又表記	Sightseeing Geography of Japan	1	前期・後期	2
氏 名	上 村 康 之	テ ー マ	観光地理学入門	

授業概要

観光地理学について概略を述べたあと、観光資源、観光施設はどのようなものかについて、いくつかの地域の事例をもとに講義、ビデオ資料等を用いて概説する。中学校、高等学校で使用した地図帳を持参して授業に臨んでください。なお、観光奨学生については、旅行地理検定試験、旅行業務取扱管理者試験に向けて「観光地理」は必須科目である。

授業計画	前 期	後 期
第1回	地理学・観光地理学とは	第16回 地理学・観光地理学とは
第2回	観光の基本	第17回 観光の基本
第3回	観光資源とは	第18回 観光資源とは
第4回	観光地の種類と特性	第19回 観光地の種類と特性
第5回	観光地の動向と課題	第20回 観光地の動向と課題
第6回	観光資源の保護と活用	第21回 観光資源の保護と活用
第7回	観光施設とは	第22回 観光施設とは
第8回	観光施設 — 飲食業と宿泊業	第23回 観光施設 — 飲食業と宿泊業
第9回	日本の観光地域1～北海道	第24回 日本の観光地域1～北海道
第10回	日本の観光地域2～東北①	第25回 日本の観光地域2～東北①
第11回	日本の観光地域3～東北②	第26回 日本の観光地域3～東北②
第12回	日本の観光地域4～三大都市圏	第27回 日本の観光地域4～三大都市圏
第13回	日本の観光地域5～九州	第28回 日本の観光地域5～九州
第14回	日本の観光地域6～南西諸島	第29回 日本の観光地域6～南西諸島
第15回	まとめ	第30回 まとめ
テ キ ス ト	使用しない。プリントを使用する。	
参 考 文 献	帝国書院編集部編『新詳高等地図 初訂版』帝国書院	
単位認定の方法	定期試験と授業内レポート	
内容的に関連する科目	地理学の基礎、産業と地域、人間と地域、自然と地域	